

ふゆの日

月子さんと

僕は
ゆっくり

歩いていた

黄色い月が
つややかな
液体のように
うかんでいる

ふるえる空気は
しみしみ

音がして

木靈たちも

集まりだしたようだ

くらがりに

鹿のひとみが光る
しばらくすると

橙の

あかりこぼれる

町にちかづいてきた

僕が

いつもより

ちいさな声で

どこに向かっているのかな
と
きくと

はじめての場所に

月子さんは

ほほえんで言つた